

2020 年 5 月 1 日

団体名 小平学・まちづくり研究所.....

代表者・役職名 氏名 所長 山路憲夫

1. 助成プロジェクト名

小平まちづくりカフェ ——対話で作る居場所、つながり、安心

2. 実施団体の概要（創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで）

小平市の総合的研究・調査を通して、小平学の構築、それにより同市でのまちづくりを進めることを目的に2016年末設立、14回にわたる研究会や市民公開シンポジウムを開催、2018年9月には「小平学・まちづくり研究のフロンティア」も出版した。会員数は白梅学園大学教員や「小平西地区ネットワーク」の地域住民ら17人。

3. プロジェクトの目的とその背景（※応募申請書に記載のものでも可） 250文字程度まで

日本の高齢化は今後、大都市部で加速する。とくに介護や医療への依存度が高い75歳以上の後期高齢者が増え続ける結果、そうした高齢者、家族を支える地域の取り組みが求められる。医療や介護、健康づくりに関する不安も強い。不安や疑問に応えられる相談体制も十分ではない。本プロジェクトはさまざまな医療、介護、生活上の日常的な不安を乗り越え、安心して暮らせる地域づくりをしたいと願う医師や介護職ら専門職、高齢者や障害者、家族ら市民を対象とする。プロジェクトでの取り組みを通じて小平市でのニーズを分析し、まちづくりにつなげたい。

4. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可） 300文字程度まで

医療や介護、福祉の専門職、地域住民が協働して、対話の場を地域に設け、人々の健康とつながりを高める(ウェルビーイング)。高齢化に伴い医療や介護、健康についての悩みを抱える人々が増え続けているが、従来型の講演会や研究会は市民にとって聞くだけの一方通行になりやすい。定期的に医療や介護などの専門職が講師となり、市民とが垣根なく対話できる場を開催することで、地域住民にとって求める知識を身に付け、不安感を和らげられると同時に専門職にとっても、市民が求めるニーズ、不安感を知ることできる。講師と住民との対等な関係での「対話」により安心して暮らせる地域づくりを目指す。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

3回にわたる研究会には30人～40人の市民、専門職、行政の関係者が参加、市民公開シンポジウムには50人が参加。小平市での障害者支援がさまざまな人たちの関わりによって築き上げられてきたこと、市民活動を支援する取り組みも「アスピア」のような支援組織により着実に進みつつある。そうした市民活動の積み重ねを受けて、行政も地域共生社会を目指すまちづくり長期計画に取り組みつつある。「みんくるカフェ」の取り組みからは、医師ら専門職と市民の垣根なく話せる場づくりの必要性、重要性を共通認識として持つことができた。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

少子高齢化の加速は、小平市でも自立困難な人々を支えるための地域包括ケアの構築を迫るが、現実には支え合う地域づくりはなかなか進まない。協働の意識、取り組みは徐々に広がっているとはいえ、行政や医師会などの専門職団体、専門職の支えはまだ不十分である。それを変えていくためには市民が小平市という地域の現状をきちんと理解し、安心して暮らしていくための仕組みづくりについて、声を上げ、支えあいの地域づくりに参画

していくことが求められる。そのためには医師ら専門職と対等に話せる場づくり、それを通しての自らの生活課題を自覚することが求められる。

#### 7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

# 人生の最終段階の迎え方何でも相談

## 第2回「小平カフェ」

白梅学園大学小平学・まちづくり研究所主催

日時：2019年8月29日18時～19時半

場所：小平市中央公民館

相談者：山崎章郎 ケアタウン小平クリニック院長

コーディネーター：山路憲夫 白梅学園大学小平学・  
まちづくり研究所所長

遅かれ早かれ、誰しもが人生の終りを迎えます。日本は今「多死時代」に入っています。できれば病院や施設で終末期を迎えたくない。自宅の畳の上で安心して最期を迎えたい、と日本人の多くは思っています。

地域でそれを支える医師や専門職がおり、そうした体制があるのでしょうか？何より、本人家族が、どんな意識、死生観を持つべきでしょうか？

先駆的にガン患者などの在宅医療、在宅看取りに取り組んでこられた山崎章郎医師を相談者に招き、在宅医療、在宅看取りを中心に人生の最終段階の迎え方、あり方について山崎先生とともに考えたいと思います。

医師や看護師、ケアマネや介護職の専門職になかなか話しづらい雰囲気がありますが、一方通行ではなく専門職と市民とが対等に話せ、相談できる場づくりを目指す「小平カフェ」の二回目です。

是非皆さまお誘いあわせの上ご来場ください。



西武多摩湖線 青梅街道駅徒歩5分

主催：白梅学園大学小平学・  
まちづくり研究所

参加費：当日先着順受付・無料

問合せ：小平学・まちづくり

研究所 042(313)2799

メール [yamaji@shiraume.ac.jp](mailto:yamaji@shiraume.ac.jp)

本事業は2019年度真如苑多摩地域  
市民活動助成対象事業です。

## 第三回「小平カフェ」

# 鈴木遺跡から見えて来る小平のルーツ 白梅学園大学小平学・まちづくり研究所主催 2019年11月14日(木)18時~19時半、小平市中央公 民館

講師： 小川望・小平市地域振興部文化スポーツ課学芸員

コーディネーター：

山路憲夫・白梅学園大学小平学・まちづくり研究所所長

今から45年程前に、現在の小平市鈴木小学校建設予定地で3万数千年前の旧石器時代の遺跡が発見されました。黒曜石でできたナイフ形石器(ないふがたせっき)や、大きな打製石斧(だせいせきふ)などの貴重な遺物が見つかり、日本の後期旧石器時代を代表する貴重な遺跡として、今も調査・研究が続けられています。

その発掘調査、研究に長年携わってこられた小川学芸員の話聞きながら、悠久の昔に思いをはせ、鈴木遺跡から見えてきた小平市のルーツを考えたいと思います。

お茶を飲みながら講師の方となんでも対等に話せ、語れる場づくりを目指す「小平カフェ」の三回目です。

皆さまお誘いあわせの上、是非ご来場ください。

**主 催：**白梅学園大学小平学・まちづくり研究所

**参加費：**当日先着順受付 無料

**問合せ先：**小平学・まちづくり研究所 042(313)2799

**メール** [yamaji@shiraume.ac.jp](mailto:yamaji@shiraume.ac.jp)

**本事業は2019年度真如苑多摩地域市民活動助成対象事業です。**